

ハーモニカ 郷愁誘う



愛用のクロマチックハーモニカを手に、実家で弟が経営する和ろうそく店にたたずむ和谷さん(京都市下京区・わた悟商店)



京出身和谷さん、来月「びわ湖クラシック音楽祭」出演

大津市のびわ湖ホールで5月3〜5日に開かれる「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」に、京都市下京区出身のハーモニカ奏者**和谷泰扶さん(57)**が出演する。ハーモニカの概念を変えるような巧みな奏法で郷愁を誘う音色を届ける。

超絶的技巧 音色なめらか

和谷さんは同志社大卒業後、ハーモニカ発祥の地ドイツ・トロツィンゲンで学び、国際コンクール1位を20代で連続受賞するなど若くして才能を開花させた。ドイツやシンガポールの大学で指導後、現在は洗足学園音楽大(川崎市)で講師を務める。

愛用するのはスライド式クロマチックハーモニカで、わずか14センチの大きさで3オクターブの音を出せる。和谷さんは「(口)に当てたハーモニカ(の)四つの穴を舌で押さえ、口の両端から息を吐く」ような超絶的技巧で演奏する。吹き吸いするポイントが1ミリでもずれると音が変わってしまうといい、「なめらかな音色にこだわっている。地元で久しぶりのリサイタルでもあり出演が楽しみ」と話す。

音楽祭で和谷さんは4日の「円熟を聴く」と題したリレー形式の演奏会で、ルーマニア民謡やサラサーテの「カルメン・ファンタジー」など3曲を披露する。ほかにピアノの野平一郎さんやチェロの藤原真理さんらベテラン7人が40分ずつ演奏する。

和谷さんの出演は午後2時から。チケットは千円。問い合わせはびわ湖ホールチケットセンター077(5223)71336。

(岡本早苗)